

平成 30 年度  
八戸市における高齢者の居場所  
に関する調査報告書~~（案）~~

～社会福祉法人白銀会「地域交流スペースそよ風」従事者に対する調査編～

平成 31 年 1 月 31 日  
八戸市高齢福祉課

## I. 調査概要

### 1. 調査経緯

八戸市では、平成 30 年度より八戸市生活支援体制整備推進協議会が設置され、多様な主体による自助や互助を推進するための各種検討が組織的に行われている。また、本事業の展開のなかで、地域住民、八戸学院大学の教員、同大学の学生(小柳達也研究室所属生)及び八戸市が連携・協力する「住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ」(以下、ワークショップ)が市内各地で開催され、住民ニーズの把握と解決策の検討が同時に行われている。

平成 30 年 2 月 23 日、鮫地区、南浜地区及び白銀南地区を対象として実施された第 3 回ワークショップにおいて、参加者から「高齢者の居場所がない」という声が聞かれた。それが契機となり、同年 3 月 28 日に開催された第 3 回八戸市生活支援体制整備推進協議会にて八戸市内の高齢者の居場所に関する調査の実施について審議され、承認された。

その後迅速に、本事業の第一層生活支援コーディネーターによって市内における高齢者に対する居場所提供サービスに関する取り組みの先進事例について調査が行われた。結果として、昨今の社会福祉法人改革の潮流のなか、平成 29 年度より、社会福祉法人白銀会(以下、白銀会)「地域交流スペースそよ風」(以下、そよ風)において、その様なサービスの提供が行われていることについて確認された(表 1.1)。まだ萌芽的な取り組みであるが、一定程度の利用者が現れ、5 種類のプログラムを中核として、地域に根ざした居場所提供サービスが提供されているとのことであった。そこで、同法人の御理解と御協力のもと、そのサービスの利用者と従事者双方に対して実態把握調査を実施した。<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> 本調査においては、利用者に対する調査をまとめた「利用者編」と従事者に対する調査をまとめた「従事者編」の合計 2 編の報告書を作成している。

表 1.1 そよ風の概要

所在地	八戸市堀ノ外9-3
開設日	平成29年4月1日
利用対象	基本的には、八戸市内の地域住民が利用対象とされている。 <sup>2</sup> 年齢や障害の有無などは不問である。
1日あたりの参加者数	その日によるが、多いときで1日50名程度である。
プログラム	みんな食堂(毎月5日) : 食事の提供(子ども食堂の拡大版) おもいで学校(毎月10日) : 地域回想法 オレンジカフェ(毎月15日) : 住民間・世代間交流 元気はつらつクラブ(毎月20日) : 介護予防・健康づくりのための運動 ハーモニーの会(毎月25日) : 音楽を取り入れたレクリエーション
利用料	無料
従事者	白銀会の職員
経緯	<p>白銀会では、1980年代後半より、地域に密着した保育や高齢者福祉に関する事業が展開されている。また、平成23年の東日本大震災後には、法人職員が一体となった住民支援が実施されるなど、地域に根ざした福祉実践が続けられている。</p> <p>そのようななか、平成27年頃より、全国的に社会福祉法人による地域貢献活動が話題にのぼるようになったため、新たな取り組みについて検討されることになった。平成29年1月、本法人職員によって「子ども食堂を全世代向けに拡大して実施してはどうか」と提案されたことが契機となり、そよ風の構想がはじまった。職員間での検討のみならず、八戸市高齢福祉課を含む関係各所との意見交換が行われた後、中核とするプログラムなどの内容がまとめられた。そして、平成29年度より、主なコンセプトに「高齢者を含む地域住民への居場所提供」を据えたサービスの提供が開始されている。</p>

<sup>2</sup> 当初は、白銀会のある白銀町周辺の地域住民が利用対象として想定されていたが、平成30年9月現在、八戸市内の幅広い地域の住民から利用されている。また、人数は多くないが、市外から通う利用者もみられるようになっている。

## 2. 調査目的

本調査の目的は、八戸市の生活支援体制整備の一環として、同市内において地域住民に対する居場所提供サービスに取り組むそよ風の従事者の実態について、当事者の意思を含め把握することである。

## 3. 調査対象

そよ風で従事する白銀会の職員

## 4. 調査期間

平成 30 年 9 月 5 日～9 月 20 日

## 5. 調査方法

対面法による自記式質問紙調査

## 6. 倫理的配慮

本調査は、八戸学院大学研究倫理委員会の承認を経て実施した(平成30年8月7日承認)。調査者から調査対象者に対して、書面と口頭にて調査協力は強制でないこと、途中の辞退も自由なこと、調査結果は統計的に処理され、個人を特定できない形でデータ化し、八戸市の生活支援体制の整備及び調査研究目的以外には利用しないことについて説明したうえで調査協力依頼が行われた。そして、調査協力を同意をした人に対してのみ調査を実施する体制がとられた。これにより、調査対象者の調査協力に対する任意性の確保に配慮した。

## 7. 回収率

調査票の配布は 25 件であり、全て回収された(回収率 100%)。この 25 件を有効回収とした。

## 8. 調査項目

「性別」「年齢」「出身地」「所属部署」「所属部署における職位・役職」「職種」「所属部署での合計勤務年数」「白銀会での合計勤務年数」「介護・福祉業界での合計勤務年数」「転職回数」「そよ風での従事回数」「そよ風のプログラムの合計担当回数」「そよ風で担当経験のあるプログラム」「そよ風での従事のきっかけとなった人物」「そよ風での従事前の心境」「そよ風での従事後の心境」「そよ風での従事に対する業務負担感」「そよ風での従事を望む理由」<sup>3</sup>「そよ風で従事したことによる自身の変化」「そよ風をはじめたことによる職場内の変化」「そよ風は職員にとってどのようなものか」「そよ風は地域住民にとってどのようなものだと思うか」「そよ風について思っていること」

## 9. 分析方法

基礎統計量の計測を基本としながら、適宜、クロス分析を行った。また、自由記述回答については、全ての記述内容を確認したうえでカテゴリ化を行った。

統計分析には SPSS Statistics24.0 を使用した。

## 10. 本調査において使用する主な概念の定義

### (1) 従事者

本調査では、従事者を「そよ風で従事する白銀会の職員」<sup>4</sup>と定義する。

### (2) 高齢者の居場所

既存の調査研究による高齢者の居場所の定義は多様であり、統一には至っていない。そのようななか、上野等 (2017)<sup>5</sup>は、高齢者の居場所に関する国内文献について網羅的なレビューを行い、物理的環境を居場所と認識された居場所である「物理的居場所」、人とのつながりや役割が得られるなど、人との関係やつながりを持てる場所と認識される「社会的

---

<sup>3</sup> 本調査項目については、そよ風での従事後に「従事したい」「どちらかといえば従事したい」という心境にあるが、そこでの業務が負担増と感じている人を質問対象とした。

<sup>4</sup> そよ風は、基本的に法人内の他の事業所に所属する職員が手分けをしながら協力しあう形態で運営されている。

<sup>5</sup> 上野佳代, 菊池和美, 長田久雄. 国内文献にみる高齢者の居場所に関する研究: エイジング・イン・プレイスにむけて. 老年学雑誌. 2017. 8. 33-50.

居場所」を抽出している。<sup>6</sup>一方で、居場所については、心や仮想現実(virtual reality)、SNS(social networking service)などのなかにそれをもつとする認識のされ方もある。また、自宅や遠方に存在する憩いの場を居場所と捉えることもできようが、本調査が照射している居場所は住み慣れた地域における自宅以外のそれである。これらを踏まえ、本調査では、高齢者の居場所を「自宅から通える範囲にあり、人との関係やつながりを持つことがかなう物理的に存在する場所」と定義する。

---

<sup>6</sup> 上野等(2017)<sup>4</sup>は、国内文献のレビューから、高齢者が感じている居心地や心の拠り所と認識された居場所をさす「心理的居場所」についても抽出している。地域における高齢者に関する自助・互助についての取り組みにおける共通課題を当事者の参加の継続としたうえで、その参加がされる場が心理的居場所になれば継続できることを示唆しつつ、「物理的居場所が社会的居場所として存在し、心理的居場所になる可能性は新たな研究課題」との見解を示している。

## Ⅱ. 分析結果

前述のように、回収された 25 件(回収率 100%)の調査票のうち、全てを分析対象とした。  
以下に分析結果を述べていく。

### 1. 性別

性別については、「女性」が 8 割近くを占めた(表 2.1、図 2.1)。

表 2.1 性別

	人数	割合(%)
女性	19	76.0
男性	6	24.0
合計	25	100

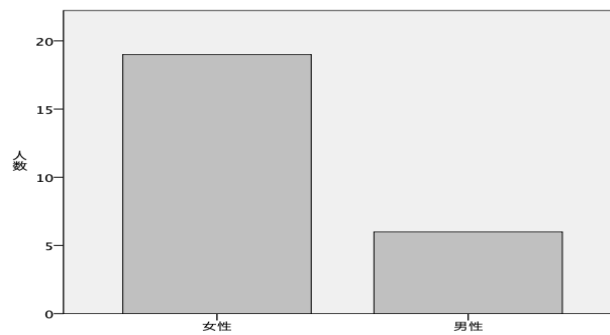


図 2.1 性別

## 2. 年齢

年齢については、「30歳代」と「50歳代」が約3割ずつ存在し、その他の年代よりも多かった。それに「40歳代」(2割)、「20歳代」(約1割)、「60歳代以上」(約5分)が続いた(表2.2)。また、平均年齢(平均値)と各年齢の分布は図2.2の通りである。

表2.2 年齢層

	人数	割合(%)
10歳代	0	0.0
20歳代	2	8.0
30歳代	8	32.0
40歳代	5	20.0
50歳代	8	32.0
60歳代以上	1	4.0
無回答	1	4.0
合計	25	100

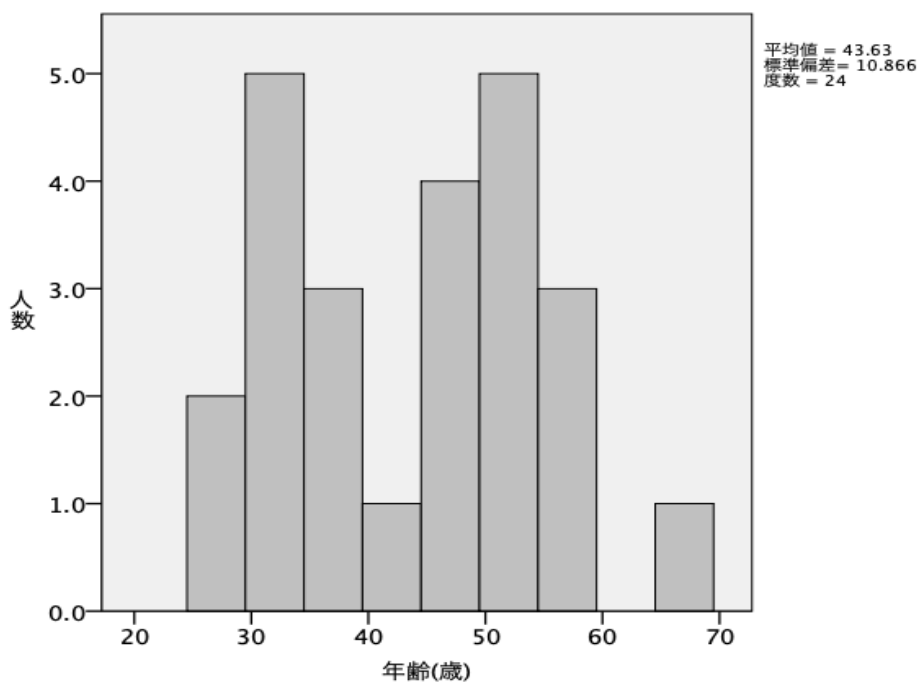


図2.2 平均年齢(平均値)と各年齢の分布



### 3. 出身地

「八戸市内」の出身者が8割以上を占めた(表2.3、図2.3)。

表2.3 出身地

	人数	割合(%)
八戸市内	21	84.0
八戸市外	4	16.0
合計	45	100

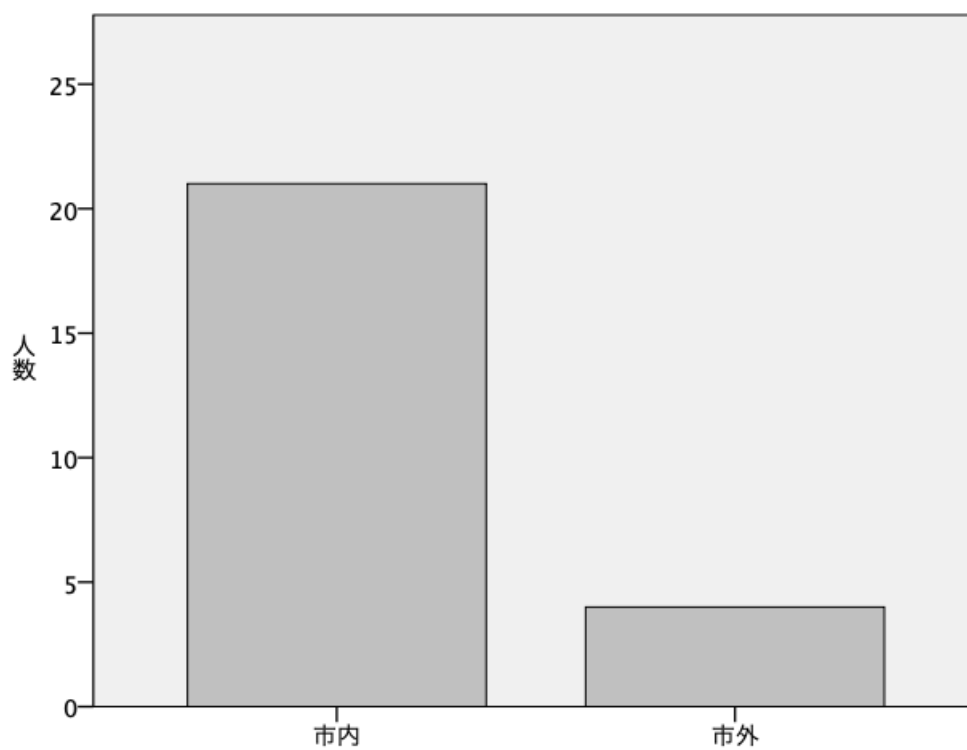


図2.3 出身地

#### 4. 所属部署

主な所属部署については、「グループホーム」が4割と最も多く、それに「通所介護事業所」(約3割)、「居宅介護支援事業所」(約1割5分)、「ケアハウス」(約1割)が続いた(表2.4、図2.4)。

表2.4 所属部署

	人数	割合(%)
通所介護事業所	8	32.0
居宅介護事業所	4	16.0
ケアハウス	3	12.0
グループホーム	10	40.0
合計	25	100

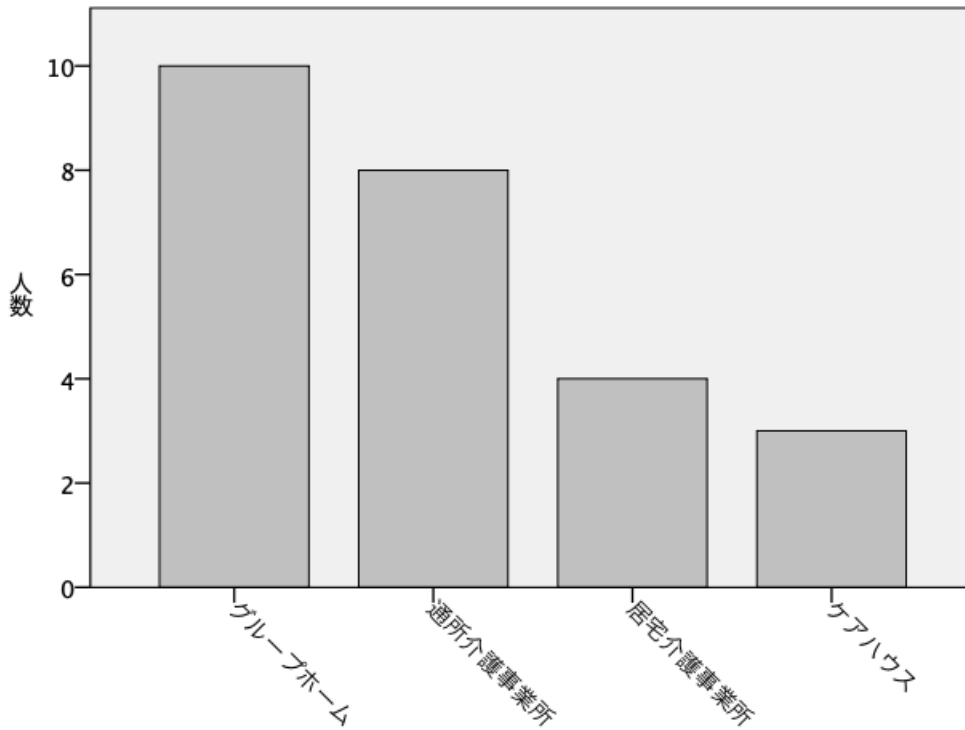


図2.4 所属部署

## 5. 所属部署における職位・役職

所属部署における職位・役職については、「一般職員」が6割を占めたが、「副主任」や「主任」、「管理者」も1～1割5分程度存在した(表2.5、図2.5)。

表2.5 所属部署における職位・役職

	人数	割合(%)
一般職員	15	60.0
副主任	3	12.0
主任	4	16.0
管理者	3	12.0
合計	25	100

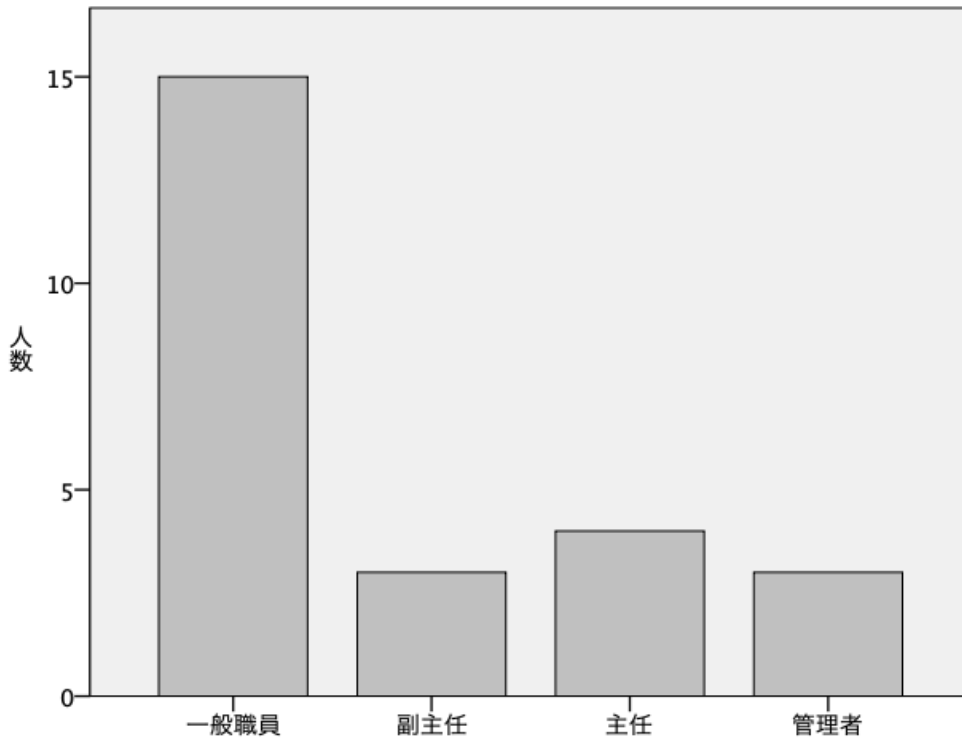


図2.5 所属部署における職位・役職

## 6. 職種

主とする職種については、「介護士」が7割近くを占めた。それ以外では、「介護支援専門員」が約1割5分、「看護師」と「生活相談員」が約1割ずつ存在した(表2.6、図2.6)。

表2.6 職種

	人数	割合(%)
介護士	17	68.0
看護師	2	8.0
介護支援専門員	4	16.0
生活相談員	2	8.0
その他	0	0.0
合計	25	100

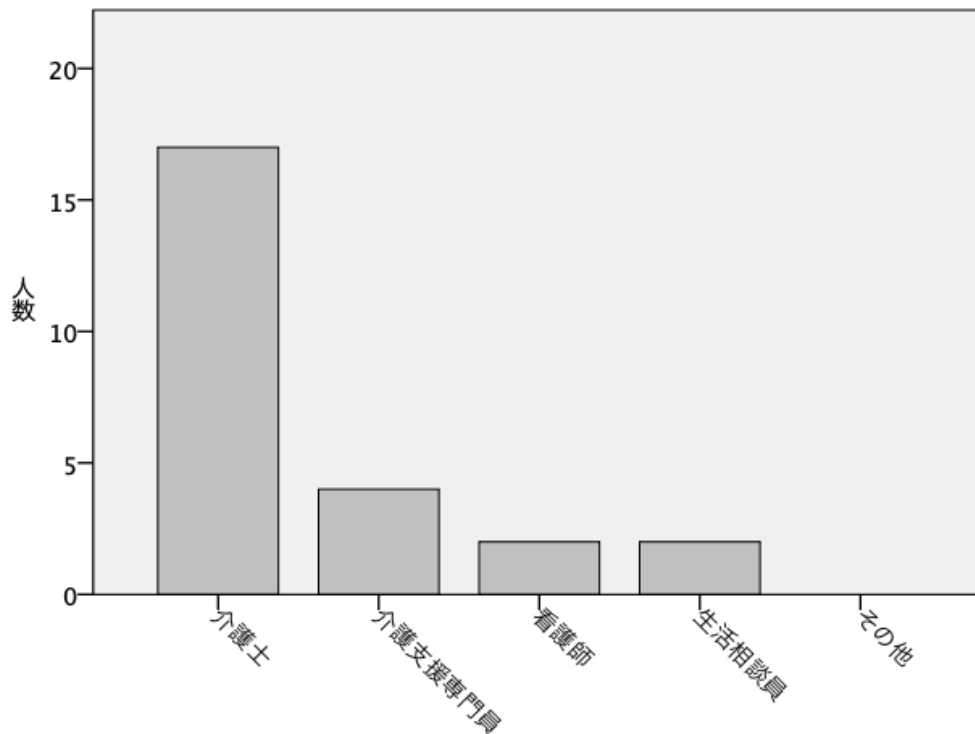


表2.6 職種

## 7. 所属部署での合計勤務年数

所属部署での合計勤務年数については、「5年未満」が4割と最も多く、それに「5年以上10年未満」(約2割5分)、「10年以上15年未満」(2割)、「15年以上20年未満」(約1割)などが続いた(表2.7、図2.7)。

表2.7 所属部署での合計勤務年数

	人数	割合(%)
5年未満	10	40.0
5年以上10年未満	6	24.0
10年以上15年未満	5	20.0
15年以上20年未満	3	12.0
20年以上	1	4.0
合計	25	100

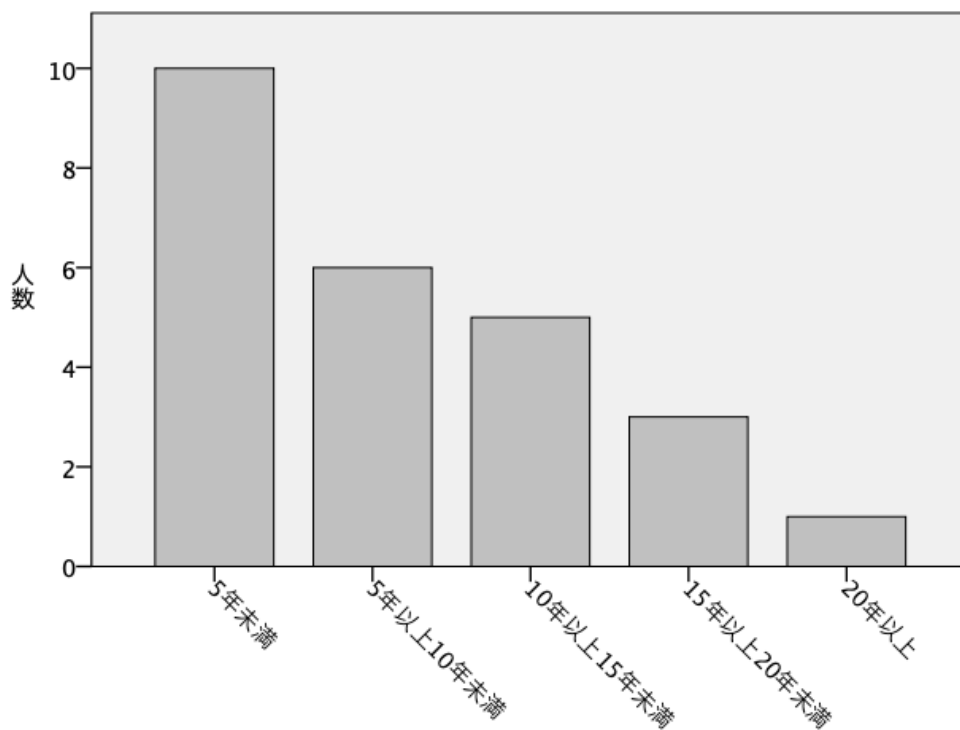


図2.7 所属部署での合計勤務年数

## 8. 白銀会での合計勤務年数

白銀会での合計勤務年数については、「5年未満」と「10年以上15年未満」が約3割ずつ存在し、6割近くを占めた。それ以外では、割合の多い順に「5年以上10年未満」(2割)、「15年以上20年未満」(約1割5分)、「20年以上」(約1割)となった(表2.8、図2.8)。

表2.8 白銀会での合計勤務年数

	人数	割合(%)
5年未満	7	28.0
5年以上10年未満	5	20.0
10年以上15年未満	7	28.0
15年以上20年未満	4	16.0
20年以上	2	8.0
合計	25	100

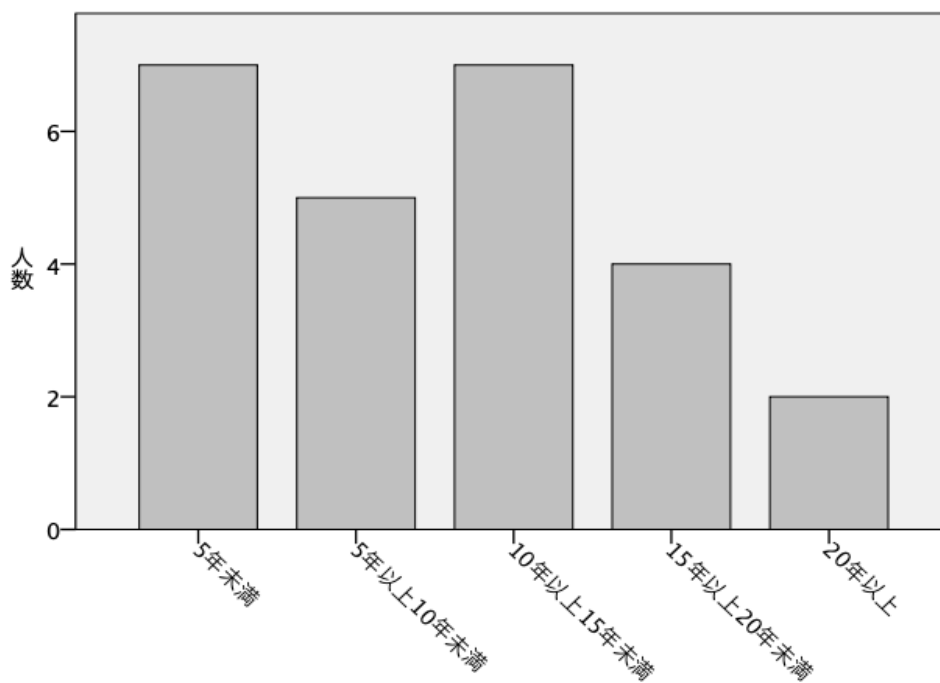


表2.8 白銀会での合計勤務年数

## 9. 介護・福祉業界での合計勤務年数

介護・福祉業界での合計勤務年数については、「10年以上15年未満」が3割をやや上回り最も多かった。それに「5年以上10年未満」(約3割)、「15年以上20年未満」(2割)、「5年未満」(約1割)、「20年以上」(約1割)が続いた(表2.9、図2.9)。

表2.9 介護・福祉業界での合計勤務年数

	人数	割合(%)
5年未満	3	12.0
5年以上10年未満	7	28.0
10年以上15年未満	8	32.0
15年以上20年未満	5	20.0
20年以上	2	8.0
合計	25	100

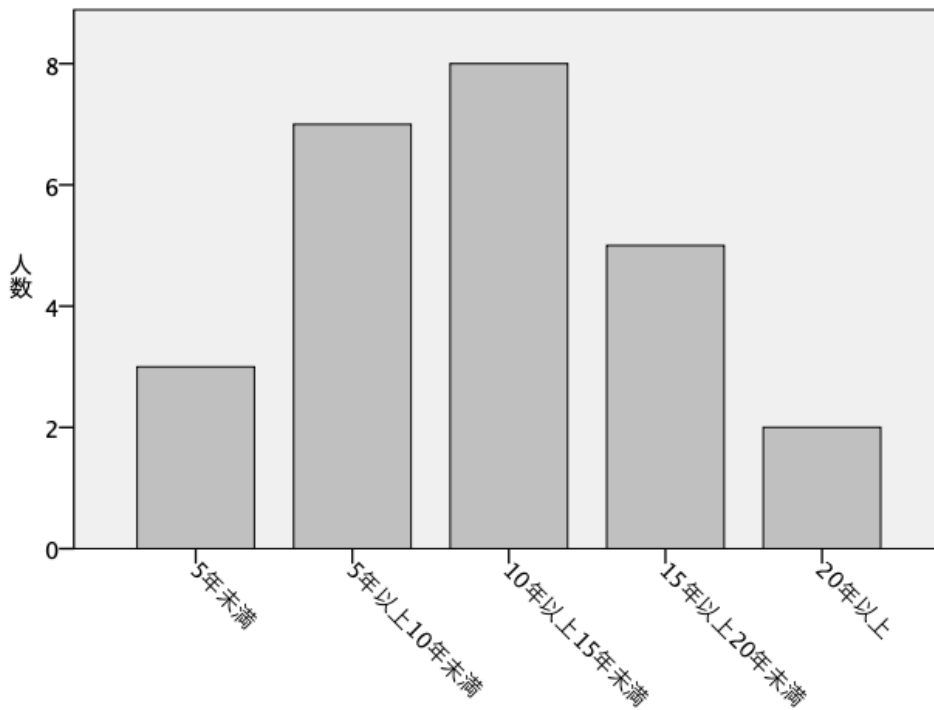


図2.9 介護・福祉業界での合計勤務年数

## 10. 転職回数

転職回数については、「3～4回」が約3割5分と最も多く、それに「1～2回」(約3割)などが続いた。「転職経験なし」は1割ほどであった(表2.10、図2.10)。

表2.10 転職回数

	人数	割合(%)
転職経験なし	3	12.0
1～2回	8	32.0
3～4回	9	36.0
5回以上	3	12.0
無回答	2	8.0
合計	25	100

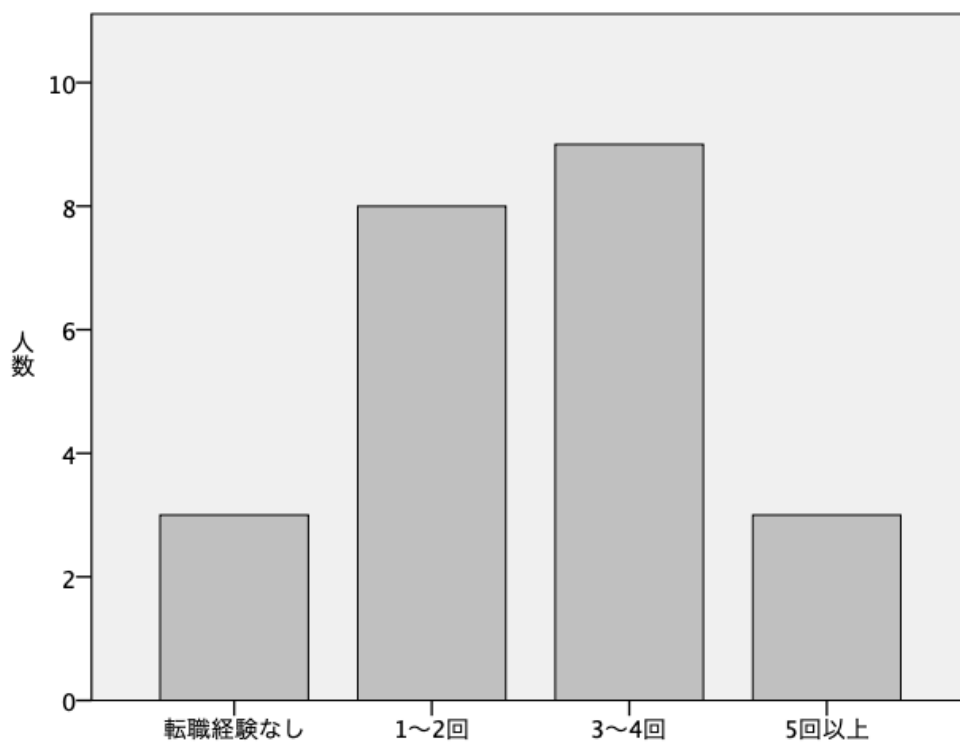


図2.10 転職回数(無回答を除く)



## 11. そよ風での従事回数

そよ風での従事回数については、「10回以上30回未満」が4割と最も多かった。一方で、「5回未満」も3割ほどみられた(表2.11、図2.11)。

表2.11 そよ風での従事回数

	人数	割合(%)
5回未満	7	28.0
5回以上10回未満	1	4.0
10回以上30回未満	10	40.0
30回以上60回未満	3	12.0
60回以上	2	8.0
無回答	2	8.0
合計	25	100

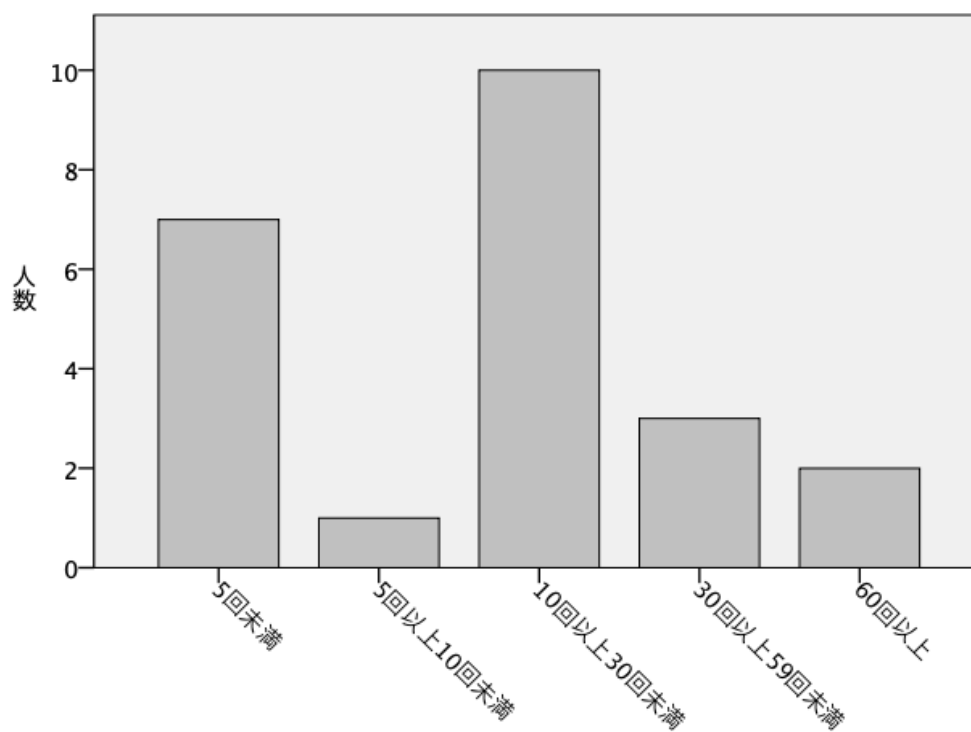


図2.11 そよ風での従事回数(無回答を除く)

## 12. そよ風のプログラムの合計担当回数

そよ風のプログラムの合計担当回数については、「1回」が約3割と最も多かった。また、半数以上が複数回担当経験者であった。一方で、「担当経験なし」も1割ほどみられた(表 2.12、図 2.12)。

表 2.12 そよ風のプログラムの合計担当回数

	人数	割合(%)
担当経験なし	3	12.0
1回	8	32.0
2回	5	20.0
3回	3	12.0
4回	1	4.0
5回	5	20.0
合計	25	100

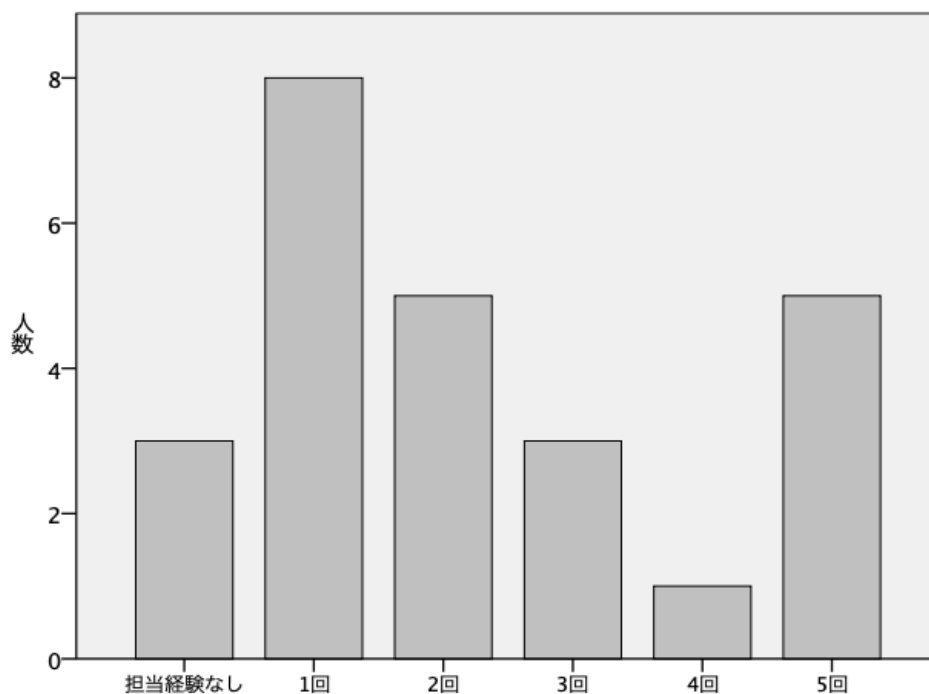


図 2.12 そよ風のプログラムの合計担当回数

### 13. そよ風で担当経験のあるプログラム(複数回答可能項目)

そよ風で担当経験のあるプログラムについては、「オレンジカフェ」(約3割5分)以外の4つは、4割以上5割未満ほどでほぼ横並びであった。大きな差ではないが、「オレンジカフェ」は約3割5分と他のプログラムと比較するとやや少なかった(表2.13、図2.13)。

表2.13 そよ風で担当経験のあるプログラム

	人数	割合(%)
みんな食堂	11	44.0
おもいで学校	12	48.0
オレンジカフェ	9	36.0
元気はつらつクラブ	11	44.0
ハーモニーの回	11	44.0

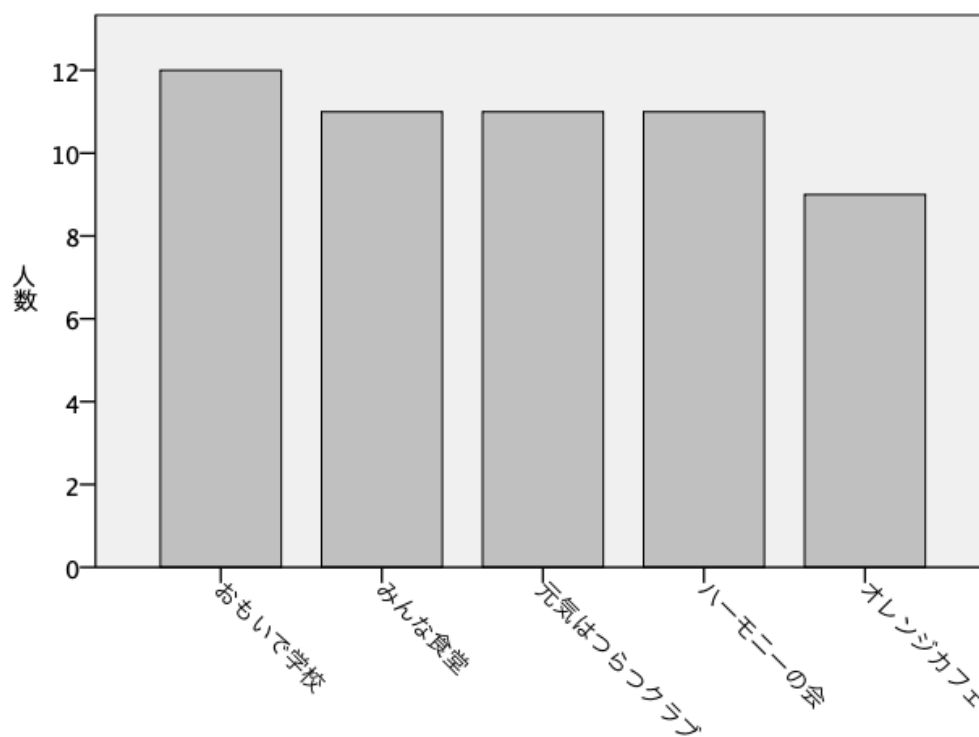


図2.13 そよ風で担当経験のあるプログラム

#### 14 そよ風での従事のきっかけとなった人物

そよ風での従事のきっかけとなった人物については、9割以上を「所属部署の上司」が占めた(表2.14、図2.14)。

表2.14 そよ風での従事のきっかけとなった人物

	人数	割合(%)
所属部署の上司	23	92.0
所属部署以外の法人職員	1	4.0
その他	1	4.0
合計	25	100

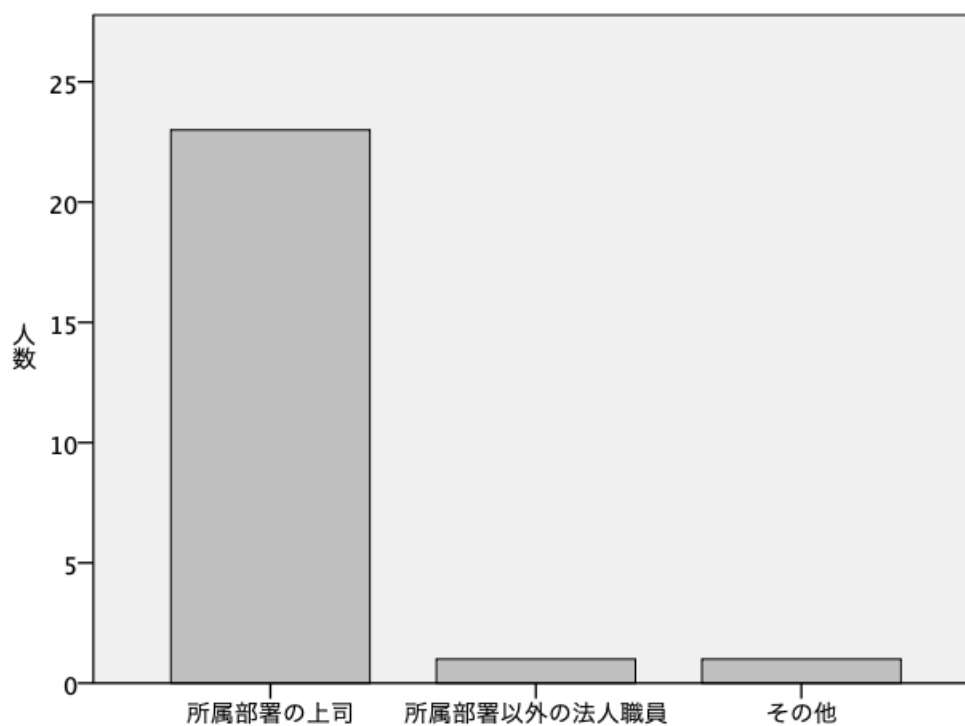


図2.14 そよ風での従事のきっかけとなった人物

## 15. そよ風での従事前の心境

そよ風での従事前の心境については、6割近くが従事に対して前向きであったことが分かった。さらに、「従事したくない」という心境であった人は皆無であった。一方で、「どちらともいえない」が約3割、「どちらかといえば従事したくない」が約1割存在していたことも分かった(表2.15、図2.15)。

表2.15 そよ風での従事前の心境

	人数	割合(%)
従事したい	7	28.0
どちらかといえば従事したい	7	28.0
どちらともいえない	8	32.0
どちらかといえば従事したくない	3	12.0
従事したくない	0	0.0
合計	25	100

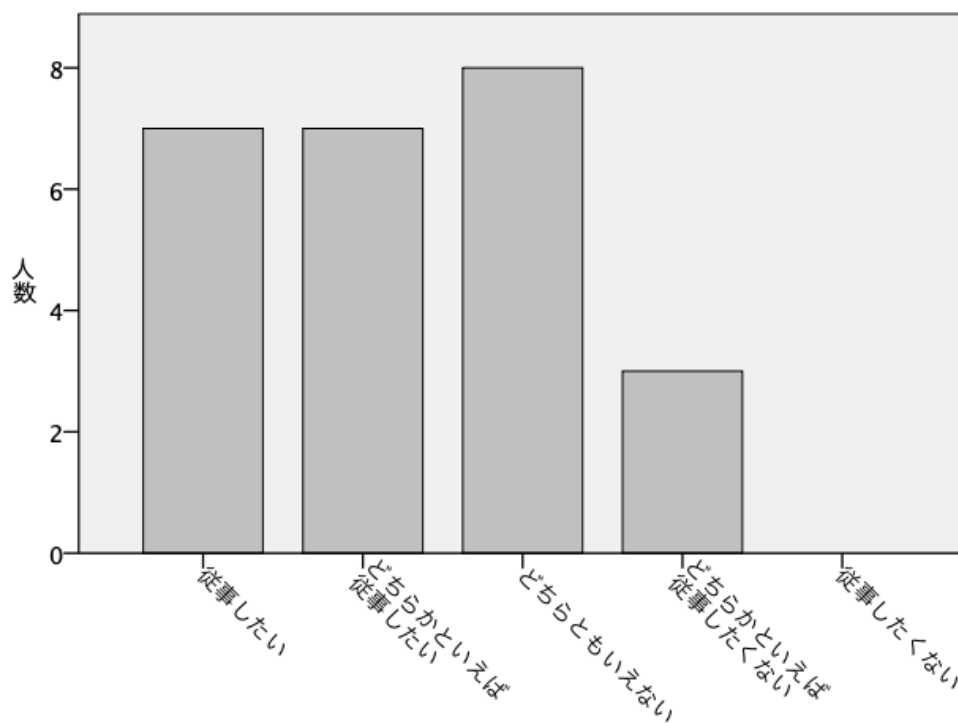


図2.15 そよ風での従事前の心境

なお、そよ風での従事前の心境については、以下の自由記述回答がみられた。

〈「従事したい」の選択者による回答〉

- ・色々勉強になり、地域の方のことや高齢者の考えが分かるから。
- ・地域で役割を担う仕事なので興味があるため。
- ・地域貢献というよりは新しい取組への挑戦することに興味があった。又、この経験はデイサービスでの業務に活かせると感じた為。
- ・地域の方に向けてよい発信ができると思ったから。

〈「どちらかといえば従事したい」の選択者による回答〉

- ・普段接している方と異なり、初対面の方と活動を行うことに不安があったが、楽しみでもあったため。

〈「どちらかといえば従事したくない」の選択者による回答〉

- ・人前で話すことが得意ではないため、司会、講師はさげたい。しかし、仕事ですのでやるからには責任を持って行い、自分も楽しめる工夫をしている。
- ・最初は何をしたらいいのか、どう動いたらいいのか全く分からなかったから、不安が多かった。

## 16. そよ風での従事後の心境

そよ風での従事後の心境については、8割5分近くが従事に対して前向きであった。また、「従事したくない」は従事前と同様に皆無であった。一方で、「どちらともいえない」が約1割、「どちらかといえば従事したくない」が約5分みられた(表2.16.1、図2.16)。

表2.16.1 そよ風での従事後の心境

	人数	割合(%)
従事したい	11	44.0
どちらかといえば従事したい	10	40.0
どちらともいえない	3	12.0
どちらかといえば従事したくない	1	4.0
従事したくない	0	0.0
合計	25	100

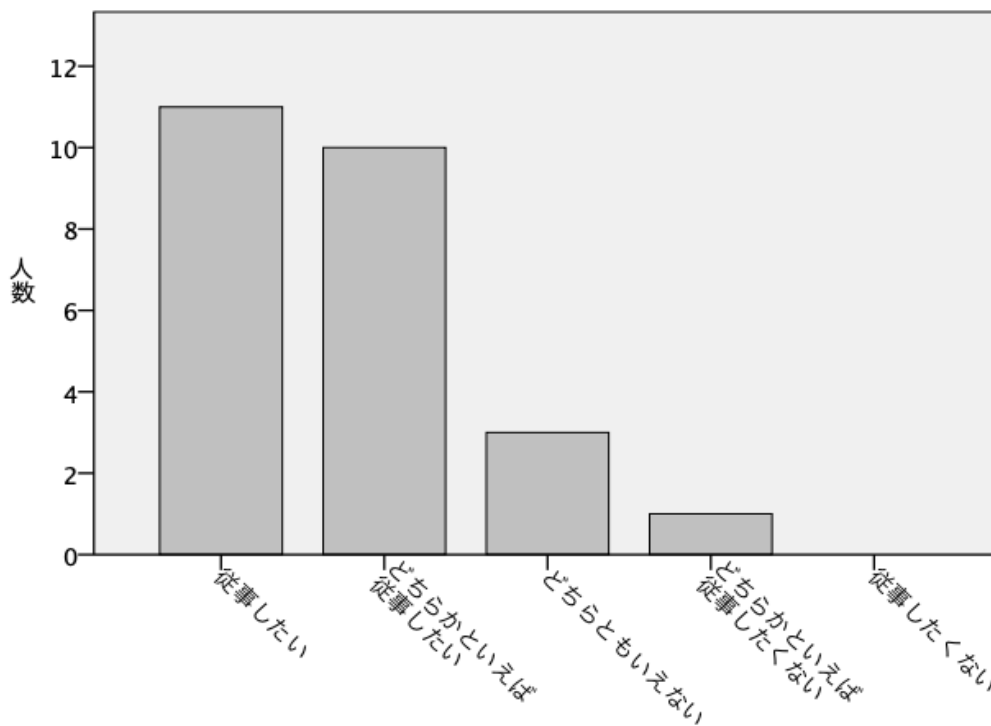


図2.16 そよ風での従事後の心境

上記の単純集計後、そよ風での従事前と従事後の心境の変化を観察するためにクロス分析を行った(表 2.16.2)。その結果、従事前に「どちらかといえば従事したくない」という心境であった3人のうち、2人が「どちらかといえば従事したい」、1人が「どちらともいえない」と従事後の心境に前向きな変化が起きていた。また、従事前に「どちらともいえない」と回答した8人のうち、1人が「従事したい」、4人が「どちらかといえば従事したい」と従事後の心境に前向きな変化が起きていた(2人は変化なし)。さらに、従事前に「どちらかといえば従事したい」という心境であった7人のうち3人が「従事したい」と心境に前向きな変化が起きていた(4人は変化なし)。一方で、従事前に「従事したい」という心境であった7人については、全員が従事後も「従事したい」という心境のままであった。

表 2.16.2 そよ風での従事前と従事後の心境

		従事後の心境				合計
		従事したい	どちらかといえば従事したい	どちらともいえない	どちらかといえば従事したくない	
従事前の心境	従事したい	7	0	0	0	7
	どちらかといえば従事したい	3	4	0	0	7
	どちらともいえない	1	4	2	1	8
	どちらかといえば従事したくない	0	2	1	0	3
	合計	11	10	3	1	25

なお、そよ風での従事後の心境については、以下の自由記述回答もみられた。

〈「従事したい」の選択者による回答〉

- ・参加者が本当に楽しんでくださる為。
- ・不安やプレッシャーはあったが、来て下さった方の表情を見て充実感を得られた為。
- ・良い雰囲気、皆さんも笑顔が見られており、私自身も楽しく思った。
- ・地域の方の反応を見て。

〈「どちらかといえば従事したい」の選択者による回答〉

- ・参加者が喜んで下さることは嬉しいですが、やはり緊張。負担は自分にはあります。
- ・楽しかった為。



## 17. そよ風での従事に対する業務負担感

そよ風での従事に対する業務負担感については、「変化なし」が約7割を占めた。一方で、「負担増」が3割ほどみられた(表2.17、図2.17)。

表2.17 そよ風での従事に対する業務負担感

	人数	割合(%)
負担増	8	32.0
変化なし	17	68.0
負担減	0	0.0
合計	25	100

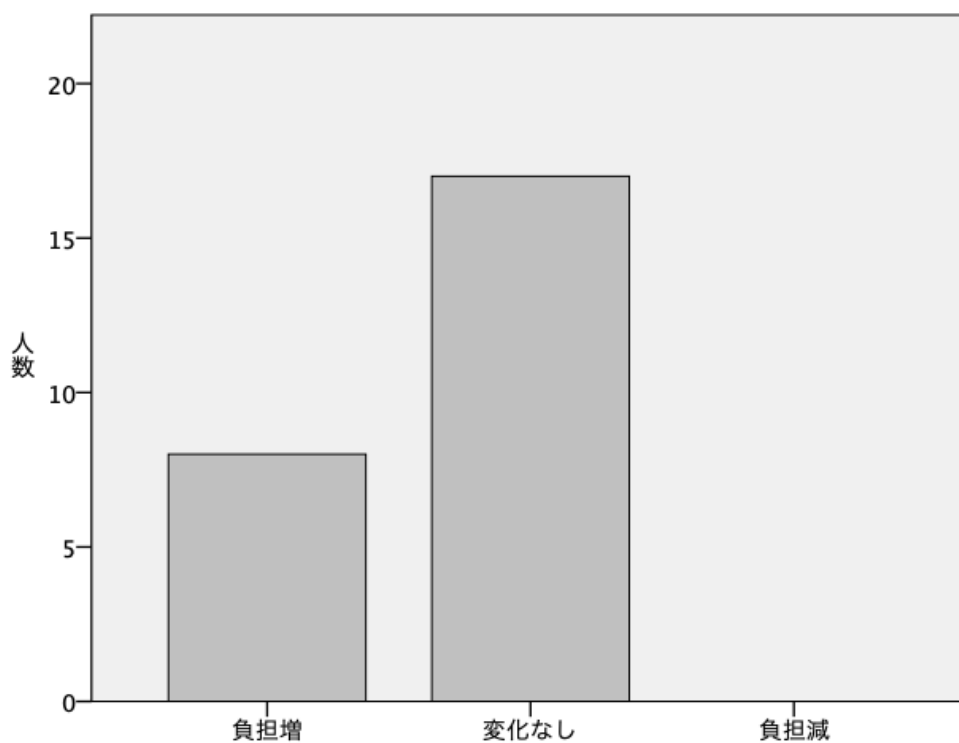


図2.17 そよ風での従事に対する業務負担感

## 18. そよ風での従事を望む理由

そよ風での従事後に「従事したい」「どちらかといえば従事したい」という心境にあるが、そこでの業務が負担増と感じていたのは6人であった。その6人に限定して、業務負担が増えているにも関わらず、「そよ風での従事を希望する理由」を問うたところ、以下の自由記述回答が得られた。

- ・地域の方への対応をどうしたらいいのか考える又は来て良かったと言う言葉を聞くと嬉しいため。
- ・地域の高齢者のしていること、思いが分かったり、身体能力がわかたりし、楽しんでいただけることがうれしいため。人と話し、笑い、健康に役立てることができうれしいです。さみしい思いをさせたくないです。
- ・負担増であるが、介護を必要としない方々と関わることで、介護で今何が必要なのかを知る機会となる。余剰にスタッフも配置していただいているのでありがたい。
- ・負担は増えるが、自分自身の学びの場となる。又地域の方との交流は単純に楽しい。
- ・それ以上に、自分の得るもの(考えの広がり、深まりや、対人援助に関わる様々なこと)が大きいと感じるため。

## 19. そよ風で従事したことによる自身の変化（自由記述回答項目）

そよ風で従事したことによる自身の変化に関する記述データを全て確認した後、内容・種類別にカテゴリ化を試みた。を試みた。その結果、以下のように「従事者の成長、意識の変化(17件)」「地域住民との関係(13件)」「特に変化、実感なし(5件)」という3つのカテゴリが生成された。なお、一度いずれかのカテゴリに属させた記述データであっても、その後登場するカテゴリに関係している場合は再掲し、新たなカテゴリの構成データ・件数に加えることにした。また、各カテゴリに配属させた記述データについては、当該カテゴリと別の内容・種類が含まれている場合でも、つながりのある文章がみられたため、原文のまま記載することとした。

### 【カテゴリ1】従事者の成長、意識の変化(17件)

- ・地域の方ともすすんで話しかけることが出来るようになった。
- ・人前での講師という経験にはなっているためありがたいと思う。
- ・教えてもらったことを誰かに知ってもらいたいと思う気持ちの変化。
- ・思いが分かりケアハウスにもいかせることがあり、やりがいがある。
- ・人の為に何をしたら喜んでもらえるかを考えるようになった。
- ・地域の人たちへの関心が増えた。
- ・地域において思った以上に孤独感をもたれている方が多いと感じた。他者との関わりを大切にしていきたいと思うようになった。
- ・介護に対する考え方が変わった。「要介護者」への施策より、それ以前の取組が最も大切と思う。今後の方向性として。
- ・利用者様が声を上げて笑い楽しんでいる姿にうれしく思い、達成感に似た感情がありました。
- ・地域の方々と接することで、「介護の担い手」としての意識が高まった。
- ・地域におけるネットワーク構築の重要性を再確認した。
- ・人との交流が大切だと感じたため業務にいかしている。
- ・現在の職場の中だけでなく、地域に目を向けて活動を行っていきたいと思うようになった。
- ・専門職として地域の一員として地域づくりにかかわる意識が高まった。
- ・ホームの利用者様だけでなく、地域の方々が元気でこの町での生活を続けることができることを支えたい。力になりたいと考えるようになった。

- ・今、所属している施設の利用者さん以外の方々と接することもでき、普段学べないことを学べる機会となるため。
- ・普段、地域の方のお話を聞いたり、接する機会がなかったので、そよ風に参加することで周りを見るようになった。

### 【カテゴリ2】地域住民との関係(13件)

- ・地域の方との交流の場が増え良かったと感じた。
- ・地域の方との交流が増えた。
- ・地域の方々の顔が分かるようになり会話、挨拶の場が増えた。
- ・地域の人たちへの関心が増えた。(再掲)
- ・地域において思った以上に孤独感をもたれている方が多いと感じた。他者との関わりを大切にしていきたいと思うようになった。(再掲)
- ・地域の方々と接することで、「介護の担い手」との意識が高まった。(再掲)
- ・地域におけるネットワーク構築の重要性を再確認した。(再掲)
- ・人との交流が大切だと感じたため業務にいかしている。(再掲)
- ・現在の職場の中だけでなく、地域に目を向けて活動を行っていきたいと思うようになった。(再掲)
- ・専門職として地域の一員として地域づくりにかかわる意識が高まった。(再掲)
- ・ホームの利用者様だけでなく、地域の方々が元気でこの町での生活を続けることができることを支えたい。力になりたいと考えるようになった。(再掲)
- ・今、所属している施設の利用者さん以外の方々と接することもでき、普段学べないことを学べる機会となるため。(再掲)
- ・普段、地域の方のお話を聞いたり、接する機会がなかったので、そよ風に参加することで周りを見るようになった。(再掲)

### 【カテゴリ3】特に変化、実感なし(5件)

- ・特にありません。
- ・特になし。
- ・今のところ実感は無い。
- ・特になし。
- ・特になし。

## 20. そよ風をはじめたことによる職場内の変化（自由記述回答項目）

そよ風をはじめたことによる職場内の変化に関する記述データを全て確認した後、内容・種類別にカテゴリ化を試みた。その結果、以下のように「従事者の成長(9件)」「法人内の別事業所の利用者への還元(8件)」「地域や法人内の別事業所の利用者の家族との関係(4件)」「職場内での話題(1件)」「業務の両立(1件)」「特に変化なし、不明(7件)」という6つのカテゴリが生成された。なお、一度いずれかのカテゴリに属させた記述データであっても、その後登場するカテゴリに関係している場合は再掲し、新たなカテゴリの構成データ・件数に加えることにした。また、各カテゴリに配属させた記述データについては、当該カテゴリと別の内容・種類が含まれている場合でも、つながりのある文章がみられたため、原文のまま記載することとした。

### 【カテゴリ1】従事者の成長(9件)

- ・作業の仕方や日常的に回想法ができたりしている。
- ・他の事業所の職員が担当しているものを見てお客様の反応を見ることができて良い刺激になり、自分の努力へつながっていると思う。
- ・利用者さんに教えたいという気持ちとレクリエーションの参考になった。
- ・その年代に合わせた話題づくりができてきた。
- ・他者との関わり方に変化があると思う。理解力ある方々と交流することで業務にいかされてきている。
- ・デイ利用者様へ、体操、ハーモニーの提供が行えている。
- ・そよ風で行った活動などをいかすことができている。
- ・現在行っていることを、どのように地域へ発信していくかを考えるようになった。
- ・地域における社会資源の一つにかかわっている意識ができた。

### 【カテゴリ2】法人内の別事業所の利用者への還元(8件)

- ・デイサービスのレクの時間にも活かせるようになった。
- ・そよ風で行った事を、皆職場に活かしており、新しい活動を利用者と行うことができている。
- ・外出できる場所が増え、活動の幅が広がった。
- ・そよ風での活動の工夫をグループホームケアにいかしている。
- ・利用者様の活動の充実を図るために「そよ風」を利用する取組が増えた。

- ・あまり他のスタッフを行かせていないため変化は分からないが、自分としてはそよ風であったエピソードなどを伝えるようにはしている。
- ・デイ利用者様へ、体操、ハーモニーの提供が行えている。(再掲)
- ・他者との関わり方に変化があると思う。理解力ある方々と交流することで業務にいかされてきている。(再掲)
- ・そよ風で行った活動などをいかすことができている。(再掲)

### 【カテゴリ3】地域や法人内の別事業所の利用者の家族との関係(4件)

- ・地域との関わりがもてる。
- ・ホーム入居の御家族様との会話に時々出てきています。白銀会を理解していただけるチャンスと考えています。
- ・現在行っていることを、どのように地域へ発信していくかを考えるようになった。(再掲)
- ・地域における社会資源の一つにかかわっている意識ができた。(再掲)

### 【カテゴリ4】職場内での話題(1件)

- ・行事について話題になることがあります。

### 【カテゴリ5】業務の両立(1件)

- ・業務の範囲が増加しており、デイサービス業務への取組はうすくなっているように思う。そよ風での取組をフィードバックする場面もあるのですが…。

### 【カテゴリ6】特に変化なし、不明(7件)

- ・あまり他のスタッフを行かせていないため変化は分からないが、自分としてはそよ風であったエピソードなどを伝えるようにはしている。(再掲)
- ・特に感じない。
- ・特になし。
- ・特になし。
- ・特になし。
- ・特になし。
- ・分からない。
- ・分かりません。

## 21. そよ風は職員にとってどのようなものか（自由記述回答項目）

そよ風は職員にとってどのようなものかに関する記述データを全て確認した後、内容・種類別にカテゴリ化を試みた。その結果、以下のように「地域住民との関係、交流（18件）」「従事者の成長、原点回帰、自己実現（8件）」「ミスマッチの可能性（1件）」「仕事の一環（1件）」「不明（1件）」という5つのカテゴリが生成された。なお、一度いずれかのカテゴリに属させた記述データであっても、その後登場するカテゴリに関係している場合は再掲し、新たなカテゴリの構成データ・件数に加えることにした。また、各カテゴリに配属させた記述データについては、当該カテゴリと別の内容・種類が含まれている場合でも、つながりのある文章がみられたため、原文のまま記載することとした。

### 【カテゴリ1】地域住民との関係、交流（18件）

- ・地域の人に寄り添い支えていける場。
- ・施設は閉鎖的というイメージを変えられる。オープンになると思う。
- ・地域の方の窓口。
- ・地域の実情や住民を知るいい手段だと思う。
- ・地域交流。
- ・地域の方々とのふれあえる場所。
- ・地域の拠点であることを生きがいに、色々と学べる。
- ・地域との交流の場、情報交換の場と思う。
- ・地域住民とつながる場所。
- ・地域の方との交流の場。
- ・日々の勉強が地域発展に繋がっていけばいいと思う。
- ・地域の人たちとの交流機会と高齢者との話題など気づきになると思う。
- ・インフォーマルな社会資源として重要な役割を果たしている場。
- ・地域の方々と気軽に交流できる場所。
- ・地域と繋がる場。
- ・地域の人に自分たちのやっていること、やってきたことを見てもらう場。
- ・利用者様の交流や刺激となるスペースになっているため職員もその姿を見れる。
- ・個人では出会えない人とのつながりになると思っています。

### 【カテゴリ2】従事者の成長、原点回帰、自己実現(8件)

- ・介護に日々向かっているなかで、自分に立ち返ることができる業務となっていると思う。
- ・意識の高い職員にとっては学びの場であり、ひとつの自己実現の場であるが、苦痛を感じる職員もいると思う。
- ・様々な力をつけていく場所。
- ・新たな気づきができる場所。
- ・地域の拠点であることを生きがいに、色々と学べる。
- ・地域に目を向けて、介護が必要な方や、援助をしている方を共に支えていけるような考えを持つきっかけになるのではと思う。
- ・専門職として、地域の一員として考え、視野を広げる場。
- ・地域の人たちとの交流機会と高齢者との話題など気づきになると思う。(再掲)

### 【カテゴリ3】ミスマッチの可能性(1件)

- ・意識の高い職員にとっては学びの場であり、ひとつの自己実現の場であるが、苦痛を感じる職員もいると思う。(再掲)

### 【カテゴリ4】仕事の一環(1件)

- ・仕事の一環。

### 【カテゴリ5】不明(1件)

- ・分かりません。



## 22. そよ風は地域住民にとってどのようなものだと思うか（自由記述回答項目）

そよ風は地域住民にとってどのようなものだと思うかに関する記述データを全て確認した後、内容・種類別にカテゴリ化を試みた。その結果、以下のように「地域における居場所、憩いの場(20件)」「生きがい、楽しみの得られる場(3件)」「役割を持ち、特技がいかせる場(3件)」「生涯学習の場(1件)」「活動性の向上の場(1件)」「不明(1件)」という6つのカテゴリが生成された。なお、一度いずれかのカテゴリに属させた記述データであっても、その後登場するカテゴリに関係している場合は再掲し、新たなカテゴリの構成データ・件数に加えることにした。また、各カテゴリに配属させた記述データについては、当該カテゴリと別の内容・種類が含まれている場合でも、つながりのある文章がみられたため、原文のまま記載することとした。

### 【カテゴリ1】地域における居場所、憩いの場（20件）

- ・悩み相談、憩いの場。
- ・地域のいこいの場。
- ・他者との交流、いこいの場、悩み相談の場。
- ・集いの場、交流できて気分転換できる場所。
- ・人とのつながりを取り戻す場。活動性を高める場。力の発揮の場。
- ・安心、頼れる、地域との輪を広げることのできる所と考える。
- ・笑顔になれる場所、楽しめる場所。
- ・イベントの他、介護相談、他者との交流の場。
- ・話し相手ができる、やりたいと思うことが増える、自分の特技をいかせる場。
- ・楽しみ、いこいの場所。
- ・地域やスタッフとの交流の場、憩いの場。
- ・地域貢献として地域の方が幸せだと感じてもらえる場になればいいと思う。
- ・1人ではないという事を感じられる場所。
- ・憩いのスペース。言葉通り「そよ風」の様に自然なりラックスした場所だと思う。
- ・気軽に立ち寄れるいこいの場、何かあったときに相談できる場(であって欲しい)。
- ・地域交流の場。
- ・誰でも集まれる地域の居場所。認知症についての正しい知識を理解できる場。
- ・「あつてよかった」と思ってもらえるような心のよりどころとなる場所であつて欲しい。
- ・普段、悩みや愚痴等、吐き出せないことを吐き出せ、様々な方々と交流できる。

- ・気軽に立ち寄れる場所。ちょっとおしゃれをして行ってみようと思える場所。役に立  
てる場所。出会える場所。

#### 【カテゴリ2】生きがい、楽しみの得られる場(3件)

- ・高齢者、利用している方にとっては確実に生きがい、楽しみになっている。
- ・子供食堂としての役割は果たしていないが、各イベントを「楽しめる場所」という感  
覚であろうと考えられる。実際、仲間以外との交流は少ない。
- ・楽しみがある場所、楽しめる場所。

#### 【カテゴリ3】役割を持ち、特技がいかせる場(3件)

- ・人とのつながりを取り戻す場。活動性を高める場。力の発揮の場。(再掲)
- ・話し相手ができる、やりたいと思うことが増える、自分の特技をいかせる場。(再掲)
- ・気軽に立ち寄れる場所。ちょっとおしゃれをして行ってみようと思える場所。役に立  
てる場所。出会える場所。(再掲)

#### 【カテゴリ4】生涯学習の場(1件)

- ・誰でも集まれる地域の居場所。認知症についての正しい知識を理解できる場。(再掲)

#### 【カテゴリ5】活動性の向上の場(1件)

- ・人とのつながりを取り戻す場。活動性を高める場。力の発揮の場。(再掲)

#### 【カテゴリ6】不明(1件)

- ・分かりません。

### 23. そよ風について思っていること(自由記述回答項目)

そよ風について思っていることに関する記述データを全て確認した後、内容・種類別にカテゴリ化を試みた。その結果、以下のように「地域における居場所(5件)」「業務負担、事業の継続性(3件)」「世代間交流、子ども・学生の参加(2件)」「介護予防機能(2件)」「生きがい、楽しみ(2件)」「法人内の別事業所の利用者への還元(1件)」「利用者の役割(1件)」「利用料(1件)」「地域住民のニーズへの対応(1件)」という9つのカテゴリが生成された。なお、一度いずれかのカテゴリに属させた記述データであっても、その後登場するカテゴリに関係している場合は再掲し、新たなカテゴリの構成データ・件数に加えることにした。また、各カテゴリに配属させた記述データについては、当該カテゴリと別の内容・種類が含まれている場合でも、つながりのある文章がみられたため、原文のまま記載することとした。

#### 【カテゴリ1】地域における居場所(5件)

- ・老若男女問わずいつでも集える「居場所」が理想的と考える。そうなれば介護予防としての効果も期待できるのではと思う。
- ・今後は困り事の相談所であり、趣味の発表の場であり、世代を超えた場所になってくれれば良いと思っている。
- ・本来のそよ風の目的とは違っていると思うが、違うなりに地域にとって必要なものとなっていると思う。しかし、こういったそよ風のような地域貢献や介護予防への取組を社会福祉法人単体で継続していくのは困難であろうと思う。又、もう1～2段サービスの質を上げていかなければ、他の地域イベントとの差が大きい、基本的に無償の為、質の向上に限界がある。
- ・地域になじみ、地域の方も介護施設の利用者もいつでも行ける場所になって欲しいです。
- ・地域の方々と三世代、四世代の交流の場になればと思います。

#### 【カテゴリ2】業務負担、事業の継続性(3件)

- ・デイサービス業務を行いながら、そよ風の計画が毎月のルーティンになっているが、職員の負担はやはり増えていると思われる。体力的、精神的な疲れがたまらないよう調整しているが、そうするとデイの業務が…となる。でもどの職種もやること、求められることが増えていると思いますので、ここだけではなく時代だと思っています。ポジ

タイプにとらえるとフィードバックして相乗効果を生み出すことになるため、その方向で現在捉えています。

- ・利用者様と一緒にそよ風へいきたいと思っているが、1年くらいは全く動く事ができていない。
- ・本来のそよ風の目的とは違っていると思うが、違うなりに地域にとって必要なものとなっていると思う。しかし、こういったそよ風のような地域貢献や介護予防への取組を社会福祉法人単体で継続していくのは困難であろうと思う。又、もう1～2段サービスの質を上げていかなければ、他の地域イベントとの差が大きいが、基本的に無償の為、質の向上に限界がある。(再掲)

### 【カテゴリ3】世代間交流、子ども・学生の参加(2件)

- ・子どももたくさんこれるようにと考えているが、あまり子どもさんがこないのが今の問題点です。行事の無い日の利用の仕方考えないともったいないです。
- ・子供、学生の参加があれば世代間交流ができる。

### 【カテゴリ4】介護予防機能(2件)

- ・老若男女問わずいつでも集える「居場所」が理想的と考える。そうなれば介護予防としての効果も期待できるのではと思う。(再掲)
- ・本来のそよ風の目的とは違っていると思うが、違うなりに地域にとって必要なものとなっていると思う。しかし、こういったそよ風のような地域貢献や介護予防への取組を社会福祉法人単体で継続していくのは困難であろうと思う。又、もう1～2段サービスの質を上げていかなければ、他の地域イベントとの差が大きいが、基本的に無償の為、質の向上に限界がある。(再掲)

### 【カテゴリ5】生きがい、楽しみ(2件)

- ・そよ風が一つのきっかけとなり「生きがい」「楽しみ」になれば良いと思います。
- ・参加している地域の方々の希望やアイデアをとり入れ、自発的、主体的な活動につながられれば…。まずは自分たち関わる側も共に楽しみ「場」を継続していきたい。(再掲)

**【カテゴリ6】 法人内の別事業所の利用者への還元(1件)**

- ・デイサービス業務を行いながら、そよ風の計画が毎月のルーティンになっているが、職員の負担はやはり増えていると思われる。体力的、精神的な疲れがたまらないよう調整しているが、そうするとデイの業務が…となる。でもどの職種もやること、求められることが増えていると思いますので、ここだけではなく時代だと思います。ポジティブにとらえるとフィードバックして相乗効果を生み出すことになるため、その方向で現在捉えています。(再掲)

**【カテゴリ7】 利用者の役割(1件)**

- ・食堂は料金を頂いても良いと思います。また交代でお手伝いをして頂けたらよいと思います。

**【カテゴリ8】 利用料(1件)**

- ・食堂は料金を頂いても良いと思います。また交代でお手伝いをして頂けたらよいと思います。(再掲)

**【カテゴリ9】 地域住民のニーズへの対応(1件)**

- ・参加している地域の方々の希望やアイデアをとり入れ、自発的、主体的な活動になげられれば…。まずは自分たち関わる側も共に楽しみ「場」を継続していきたい。(再掲)

### Ⅲ. まとめ

本調査によって、地域に根ざしつつ、高齢者を含む地域住民に対する居場所提供サービスに取り組むそよ風の従事者に関する基礎的な資料が得られた。具体的には、基本属性項目として、「性別」「年齢」「出身地」「所属部署」「所属部署における職位・役職」「職種」「所属部署での合計勤務年数」「白銀会での合計勤務年数」「介護・福祉業界での合計勤務年数」「転職回数」について実態把握された。また、そよ風と直接関係する項目として、「そよ風での従事回数」「そよ風のプログラムの合計担当回数」「そよ風で担当経験のあるプログラム」「そよ風での従事のきっかけとなった人物」「そよ風での従事前の心境」「そよ風での従事後の心境」「そよ風での従事に対する業務負担感」「そよ風での従事を望む理由」「そよ風で従事したことによる自身の変化」「そよ風をはじめたことによる職場内の変化」「そよ風は職員にとってどのようなものか」「そよ風は地域住民にとってどのようなものだと思うか」「そよ風について思っていること」について実態把握された。

本調査の分析対象件数と分析手法を考慮すれば、統計的な信頼性や妥当性を有するデータに基づく解釈とは必ずしもいえないが、今後の八戸市における生活支援体制整備、なかんずく、そよ風及びその他の居場所提供サービスを行おうとする(または、既に行なっている)機関などでの支援実践やこの種の調査研究の参考資料とするためにも、分析結果より確認、あるいは可能性が示唆された主な事項を以下に示すことにしたい。

第1に、そよ風は一定程度の従事者より、他者と交流しながら生きがいや楽しみの得られる憩いの場、役割を持ち特技がいかせる場、生涯学習の場、つまり「地域における居場所」として認識されていることについて確認された。

第2に、そよ風の一定程度の従事者は、地域住民との交流やプログラムの実施・運営などを通して、福祉実践者としての成長や前向きな意識の獲得・保持につながっていることについて確認された。

第3に、そよ風での従事の未経験者は、従事後に従事に対する心境が前向きになる可能性について示唆された。また、従事前から従事に対して前向きな心境の職員は、従事後も前向きな心境が維持される可能性について示唆された。

第4に、そよ風での従事によって従事者が得た知識・技術は、当該職員の主な所属部署に一定程度還元されている可能性について示唆された。

第5に、そよ風での従事によって、法人内の業務全体における負担感は従事者の大部分において変化していないことについて確認された。一方、負担感が高まっている従事者も比較的少ないようであるが存在することについて確認された。

そよ風の中核である5つのプログラムの実施・運営は、本スペースにおける取り組みの特徴となっているが、それらを通じて、地域住民と有機的な交流を経験し、自身の成長を実感している従事者が多く存在している。その一方で、適応に難を抱き、負担感を感じる従事者も少数であるが存在するようである。そのため、当事者のモチベーションに働きかけるマネジメントがされたうえで、地域社会、利用者、従事者それぞれに肯定的な効用のある三方よしが無理なく実現されることに期待される。例えば、そよ風の従事者は法人内に主な所属部署を有しており、そこでの業務も存在するため、双方の業務の両立のための環境を当事者の意見を定期的に聞きながら整えていくことが、取り組みの継続性の観点からは重要といえよう。

既に、白銀会の職員間ではそよ風の利用価値が一定程度認識されつつあるようである。そよ風が潜在的に有する相談機能や広報機能をいかして、利用者の地域生活上の相談のるとともに、白銀会の諸事業や取り組みについて地域へ発信していくことについては、その継続が期待される。

今後、地域ニーズの把握・対応や多世代の参加を進めようと取り組みを展開する際には、地域協議体制をさらに整備し、協力の得られる関係各所や地域住民との目的的且つ有機的な連携を段階的に強化していくことが期待される。<sup>7</sup>

なお、そよ風での従事は、従事者にとって、地域福祉観が涵養されるなど福祉分野における対人専門職としての成長につながり、また、それが法人内の諸事業所でのサービスにもいかされてきているようであるが、その背景には、居場所提供サービスという地域福祉実践を通じた地域への貢献意識の向上が要因として大きく関わっていると推察される。

---

<sup>7</sup> 例えば、厚生労働省は「社会福祉法人が社会福祉充実財産を活用して地域公益事業を行うに当たっては、その取組内容に、地域の福祉ニーズを的確に反映するとともに、法人が円滑かつ公正に意見聴取を行えるようにすることが必要であることから、各地域において『地域協議会』を整備していくことが重要。」との見解を示している。  
(出所)厚生労働省. 地域協議会について.  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/shakai-fukushi-houjin-seido/04.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/shakai-fukushi-houjin-seido/04.html)(2019年1月11日アクセス).





平成 30 年度 八戸市における高齢者の居場所に関する調査報告書：  
社会福祉法人白銀会「地域交流スペースそよ風」従事者に対する調査編

発行所 八戸市 高齢福祉課  
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号  
発行日 平成 31 年 1 月 31 日  
執筆者 小柳達也(八戸学院大学健康医療学部)